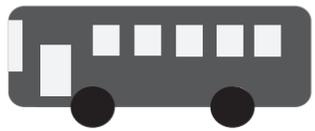


東京理科大学新聞会 夏合宿



諏訪東京理科大学

多くのサークルが合宿を行った夏休みであるが、自分の所属サークル以外ではどのような合宿が行われているのだろうか。そこで今回は、私たち新聞会の夏合宿を紹介したいと思う。8月28日から30日の2泊3日で長野県の諏訪東京理科大学へ行き、そのセミナーハウスに宿泊した。諏訪東京理科大学は広大な敷地を持っていて、校庭やテニスコートなどもあり、周りは壮大な緑に囲まれ、自然豊かで空気がおいしい。

1日目は株式会社シャトレーゼが経営するワイナリーへ見学に行き、そこで作られているワインや桃のジュースを試飲することができた。外には、一つにつきワイン約三万本が貯蔵できるタンクや、原料のぶどうを育てている畑があった。

セミナーハウスに着き、



▲ワイナリーでは試飲が可能である

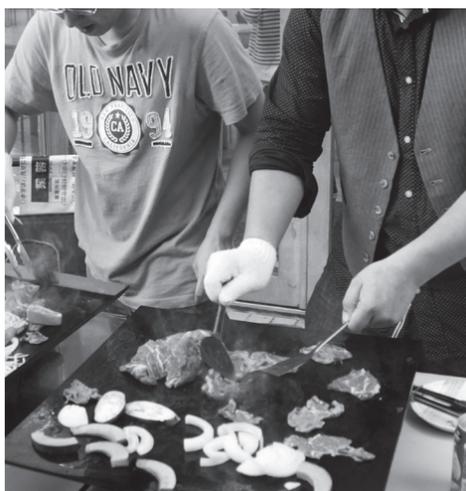
この合宿のメインである理大祭直前に発行する新聞についての会議を行った。決定した記事の内容は公開できないが、読者が興味を持てるような記事になっているので楽しみにしておいてほしい。

夕食にはバーベキューの道具一式を大学から借りて、野菜や肉、焼きそばを焼いて皆で食べた。外で食べたバーベキューはいつもとは違って、自然の中で開放的な気分を味わうことができた。その後の宴会ではトランプやおしゃべりをして、今まで話したことが無かった人や他のキャンパスの人と交流を持ち、学年関係なく皆で楽しめた。

2日目は、チームに分かれて、バスケットボール、バレーボール、ドッジボールを行った。トーナメントを行い、優勝チームのメンバーには夜に行う豪華景品が用意されているビンゴ大会のビンゴカードが一人につき二枚与えられた。普段あまり運動をしているイメージがない人達がスポーツをしているところを見ることができ新鮮であった。このスポーツ大会で新聞会内の親睦が深まった。

夜は合宿に参加した人達が各自で書いたコラムを読み、投票するコラム

大会やビンゴ大会をした。コラム大会での優勝者の賞品は、図書券であった。優勝者のコラムは片思いの相手や向日葵に喩えた比喻表現が素晴らしくあった。3日目はお昼に、有名な「おぎのや」の釜飯を食べた。釜飯には、栗、あんず、鶏肉、しいたけなどの様々な具材が、ご飯が見えなくなる程乗せられていた。ご飯は、コシヒカリを自家精米し、利尻昆布と秘伝のダシで



▲バーベキューの様子

風味豊かに炊き上げられており、どの具材にも味が染みこんでいた。帰りのバスの中では疲れて寝ている人もいれば、元気に遊んでいる人もいた。大学に近づくと、とても名残惜しく思ったが、この美しい思い出を大切な仲間達と共有したことを私は一生忘れないだろう。



▲彫刻家ロダンによる「考える人」

JR金町駅北口から理科大学大通りに沿って徒歩3分程の場所に、今年6月にオープンしたばかりの「肉玉そば」といって、金町北口店がある。店内は下町に相応しく提灯が飾られている。席数は1階のカウンターが7席、2階のテーブルが12席

肉玉そば

葛飾お入りのお店

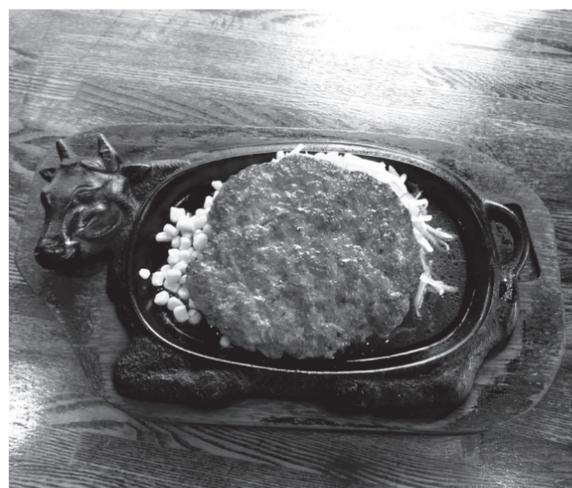


▲名物「肉玉そば」

お店のコンセプトは日本一ごはんが進むラーメンであり、ラーメンをご飯のおかずとして楽しむことができる。おすすめは「肉玉そば」は「ラーメンの定義や理屈を抜きにして、食べに来てくれた人を満足させる一杯を作りたい」という想

いから誕生した。ラーメン業界初となる三獣スープは信州豚・鶏ガラ・牛骨を10時間煮込み濃厚に仕上げられている。特製のタレで炒めた甘辛の豚バラ肉は時間が経つにつれ焼肉の甘味と旨味がスープに広がる。麺は灰分やミネラルが多く含まれる栄養価の高い2種類

今回紹介するのはJR金町駅北口から徒歩3分程の所にある「ひょうたんや」だ。理科大学大通りにあるこの店では、肉の品



▲一押し「特製ハンバーグステーキ 300グラム」

店主のおすすめメニューは「特製ハンバーグステーキ セット」で200グラム980円から提供しており、ライスはおかわり自由だ。肉のグラム数も細かく指定することができる。それに比べて値段も決まるので、たくさん食べた人や、そうでない人にも嬉しい。ソースはデミグラスや和風、味噌など計7種類もあり、肉だけではなくソースに対する店主のこだわりも垣間見える。またランチタイムには600円程で食べられる「プレートセット」がある。平日は11時から15時、17時から23時まで、土、日、祝祭日は11時半から23時まで営業している。葛飾の学生はもとより、神楽坂の学生も金町へ行く機会があれば是非立ち寄って、絶品のステーキやハンバーグを味わってほしい。

の国内産小麦粉をブレンドしてモチモチに仕上げられている。またラーメンといえは煮卵のイメージだが、このラーメンには卵黄が乗っているのも特徴だ。客層は若者が多く、本学学生もよく来店しているという。「肉玉そば」は量によつて500円と690円の2つから選べ、お手頃価格ながらもボリュームたっぷりである。ちなみに現在アルバイトを募集しているとのことだ。営業時間は午前11時から深夜3時まで。是非足を運んでみてほしいか

り、老若男女が楽しめるものとなっている。コンセプトは「アットホームな雰囲気でも気軽に訪れられる場所を提供すること」であり、リピーターも数多く、20年以上通っているお客さんもいるそう。

大学の皆さんは大学パーナードシップ制度をご存じだろうか。学生証を提示すると、特定の美術館や博物館に無料または割引料金で入館できる制度である。今回は、本学のパーナードシップが利用できる国立西洋美術館について紹介する。例えば「昇れない階段」やその奥に広がる中3階の「開かずの間」など、ミステリアスな発見もある。国立西洋美術館は、20世紀を代表するフランスの著名建築家ル・コルビュジエによって設計され、この美術館の柱の間隔、床の厚み、天井の高さ、前庭の石畳や外壁に至るまで、寸法にモデュロールが採用されている。モデュロールとは「Module(寸法)」と「Section d'or(黄金比)」を合わせたル・コルビュジエの造語で、建築の寸法を決める際に人体のサイズを基準としている。そのため建物のあらゆる所にも芸術を感じられる。新館に入ると、松方コレクションとフランス近代絵画が並んでおり、また小企画展会場があり、時期によって変わるものが展示されている。出口前には最後の展示としてピカソを代表する20世紀絵画が飾られている。

国立西洋美術館

以上は、国立西洋美術館の全貌のほんの一部に過ぎない。本学の学生には美術に関心のある人はあまりないかもしれないが、早速次の休日の計画を変更して実際に足を運んでほしい。美術作品を楽しむ機会はないかなと無いので、行ってみたいという感動が味わえるかもしれない。また、上野国立科学博物館などもあり、大学パーナードシップが利用できる施設がたくさんあるので本学の学生で、ある今のうちに是非活用していただきたい。